

高齢者の 運転傾向から学ぶ 交通安全

高齢ドライバーの運転を元に
自身の運転も見直してみませんか？

県内に在住している65歳以上の高齢ドライバー30人の
私有車両にGPS機器を1ヶ月間取付けて普段の運転状況
を確認し走行データから見える特性を分析しました。

1 県内の高齢ドライバーによる交通事故の推移

区分	H27	H28	H29	H30	R01
人身事故件数	1,190	1,235	1,131	958	839
構成率(%)	21.2	23.4	23.5	24.3	26.5
うち死者事故件数	21	13	27	16	19
構成率(%)	34.4	23.2	36.5	30.8	47.5
負傷者数	1,437	1,495	1,354	1,149	993
構成率(%)	20.4	22.9	22.8	23.7	25.6

(交通事故の構成率は、全ドライバーによる事故件数、死者数、負傷者数に対する比率)

交通事故は
減少しているが、
構成率は増加。

2 県内の高齢ドライバーと20歳代ドライバーに見られる傾向 (令和元年)

人身事故 件数	20歳代	575.0件
	高齢者	317.6件

死亡事故 件数	20歳代	5.94件
	高齢者	7.19件

(ドライバーによる年齢層別免許保有者10万人当たり)

分母をそろえると、交通事故件数は20歳代の方が多いですが、死亡事故件数は高齢者の方が多いです。

つまり、高齢ドライバーによる交通事故は、死亡事故となるおそれが高い。

【診断及びアンケート結果】

過去3年間で、交通事故を起こしそうになった経験の認識が全くない又は少ないと答えた高齢ドライバー21人のうち、6割以上の方が、交通事故を起こすおそれのある運転をしていたことに気づいていませんでした。

あなたは過去3年間以内に、運転中、交通事故を起こしそうになったことはありますか。

■ 1. 全くなかった ■ 2. ほとんどなかった ■ 3. 多少あった
■ 4. よくあった ■ 5. 実際に交通事故を起こした



診断の結果、交通事故を起こすおそれのある運転の回数を指摘され、どのように思いましたか。

■ 1. こんなにあるとは思わなかった ■ 2. 思った通りだった
■ 3. もっとあると思っていた ■ 4. 全くなかった



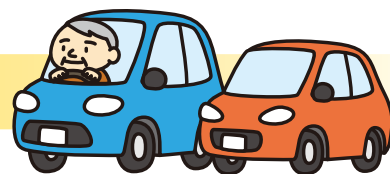
3 高齢ドライバーと若年ドライバーとの違い

一般的に、高齢ドライバーは、

認知力
(動体視力、夜間視力、周辺視野)

判断力
(判断の正確さ、判断の速さ)

操作能力
(動作の正確さ、動作の速さ)



が若年ドライバーと比較して低下するため、今までどおりの運転から、これらの**能力をカバーする運転**に変容する必要があります。

※「ドライバーによる」とは、原付以上のドライバーが主な原因を作ったもの

4 高齢ドライバーの特性(20歳代ドライバーとの比較)から学ぶ交通事故防止

1. 幹線道路

特性 無謀な運転をしない(速度を抑えて運転する)傾向にあります。

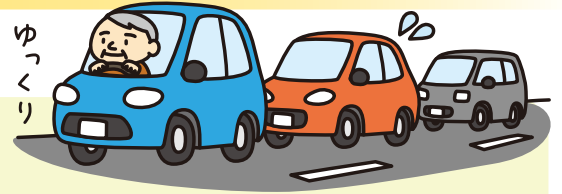
対策 高齢ドライバーの方
あおり運転(妨害運転)や割り込み車両に注意しましょう。

特に、片側二車線道路ではできるだけ追い越し車線を走行しないようにしましょう。

一般ドライバーの方

高齢ドライバーをはじめとする周囲の車両等に対する思いやり、譲り合いの心を持ちましょう。

不必要な急ブレーキや無理な進路変更等はやめましょう。



2. 生活道路

特性 慣れた道では速度を出す傾向が見られます。特に、川沿いの道や中央線のない道路では、離合を避けるなどの理由から早く通過しようとする心理が見られます。(能力をカバーする運転に変容していない)

対策 高齢ドライバーの方
通り慣れた道こそ注意するとともに、身体機能の衰えを自覚し、安全運転を行いましょう。
できるだけ抜け道を避け、走行する場合は必ず速度を守りましょう。

一般ドライバーの方
速度が速い車が来ることを念頭に、早めの減速や停車して道を譲るなど防衛運転を心掛けましょう。

歩行者
道路を横断するときは、左右をよく確認し、余裕を持って横断しましょう。
夜間は、反射材を着用し自分の存在をアピールしましょう。



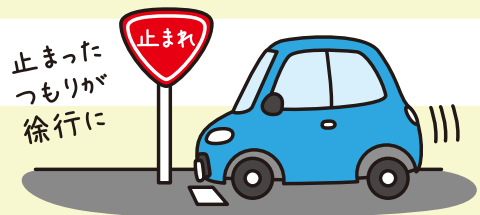
3. 一時停止場所

特性 正しく止まっていると認識していても、実際には徐行となっている傾向が見られます。

対策 高齢ドライバーの方
低下する能力をカバーするためにも、確実に停止して安全確認ができる時間を確保しましょう。
見通しの悪い交差点では自車を相手に「見せる」ための停車(多段階停止)を心掛けましょう。

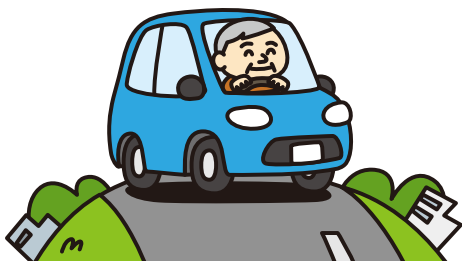
一般ドライバーの方
相手側に一時停止規制がある場合でも、「かもしれない運転」を心掛けましょう。
カーブミラーがある場合は、通過前に車両の有無を確認しましょう。

歩行者や自転車
一時停止せずに進行してくる車両があることを念頭に、交差点を横断するときは、止まって確認しましょう。



※「多段階停止」とは、①停止線での停止 ②車両の先端を見せるための停止 ③左右の安全を確認するための停止など、見通しの悪い交差点の状況に応じて行う停止方法をいう。

5 高齢ドライバーの方へ～より無理のない運転をするために～



なるべく大通りを通るようにしましょう。

夜間の運転は控えましょう。

時間に余裕を持って出かけましょう。

サポカーへの乗り換えを検討しましょう。